

明治大学 現代マンガ図書館 所蔵マンガ本目録データ作成事業

団体名 学校法人 明治大学

概要／課題と経緯

現代マンガ図書館は、国内最大級の蔵書を保有する専門図書館であり、約27万冊を保有している。平成21（2009）年に寄贈を受けた時点で目録は紙の台帳で、検索・閲覧は来館者に限られていた。2011年、目録のデータ化作業に着手、メディア芸術アーカイブ推進支援事業の支援も受け、2021年にそれまでの成果物である目録データ19万件をインターネットで公開、検索・閲覧を可能とした。

昨年度実績から本年度の取り組み／手法

従来は、現物を分類・配架した「配架済資料」からのデータ取得だったが、それを完了し、令和4（2022）年度からは、「未配架資料」を対象として、限られた空間と要員での作業への工夫が必要となった。ISBNによりMADB（メディア芸術データベース）から目録データを取得し、配架する新しい方法を試み、有効であることを実証。本年度は、残る未整理資料全約6万冊の内、雑誌等を除くマンガ単行本約4.5万冊超のデータ取得を試みた。

成果

- ・ ISBNによるMADBからのデータ取得率が81%を超えており昨年に続き有効性が確認できた。
- ・ 取得・作成した目録データ（36,766冊）は、明治大学学術成果リポジトリに登録、公開予定。
- ・ インターネットでの作品発表が増えており、マンガにおける「雑誌」の役割の転換期にある。当館の蔵書は、雑誌と単行本、その評論といった「書籍」による「マンガ文化の歴史と全体像を反映するコレクション」であり、27万冊がデータベース化され、出納・閲覧を可能とし、インターネットでの検索・事前予約・郵送複写・レファレンス利用が可能となることのマンガ研究への「文化・学術的な意義」は大きい。
- ・ 本年度、単行本の書誌データ取得が完成し、次年度の雑誌における残資料の整備を経て、コレクションの全貌がリスト化されることにより、米沢嘉博記念図書館、国立国会図書館、その他マンガ専門図書館との所蔵資料の同定・差分検証、補完調査など、更なる活用が期待される。

残された課題

コレクションの全貌把握を優先し、配架作業を先送りとしているため、目録データとしての早期完成、活用は期待できるが、出納・閲覧のためには配架が必要であり、再来年度以降、6万冊の合理的な配架作業計画が必要となる。

